

沼向遺跡第 37 次調査の成果について

1. 調査要項

調査地点 仙台市宮城野区仙台港北二丁目

調査期間 令和 4 年 10 月 28 日～令和 5 年 9 月 15 日

調査面積 1,692 m²

2. 調査概要

民間の施設建設に伴い発掘調査を実施した。沼向遺跡は、縄文時代後期から近世にかけて断続的に営まれた集落遺跡である。仙台港背後地土地区画整理事業に伴い、平成 6～21 年まで 36 回にわたって実施された発掘調査により、住居跡や古墳、水田跡などが確認されている。

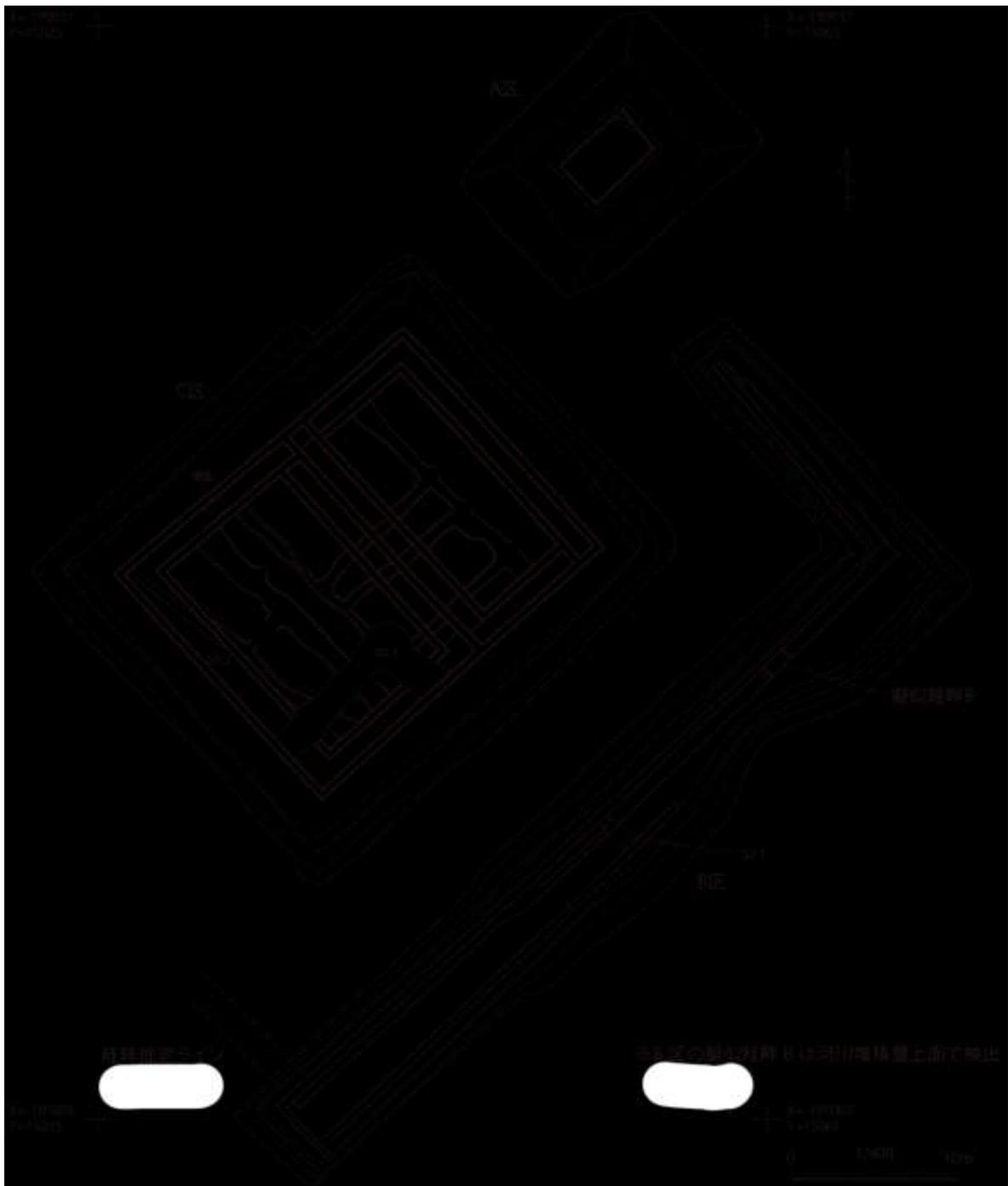
今回の調査では、古墳時代から近世の水田跡や、その水路として利用された可能性のある溝跡、貞観 11 年（869）の地震に伴う津波堆積物とみられる砂層、古墳時代前期から中期の河川跡などを確認した。遺物は古墳時代前期から中期、奈良・平安時代の土師器や須恵器などが出土した。

また調査地点における古環境を復元するため、古墳時代から近世の基本層を対象に珪藻分析を行った。珪藻には多くの種類があり生息環境の違いで棲み分けを行う特徴がある。その結果、対象試料全てで淡水生種が優占する一方、汽水生種・海生生種も産出することが判明した。

以上のように、今回の調査は過年度調査成果を追認しながら、古環境を考えるうえで貴重なデータが得られたといえる。



沼向遺跡 位置図



沼向遺跡第37次発掘調査 奈良～平安時代（9a層）水田跡平面図



沼向遺跡第 37 次発掘調査 調査区遠景（北から、令和 4 年度撮影）



沼向遺跡第 37 次発掘調査 9a 層水田跡畦畔断面（北から）

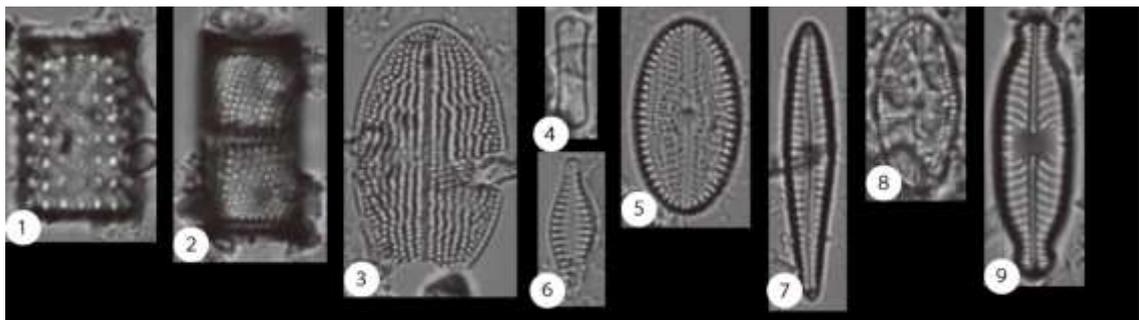


沼向遺跡第 37 次発掘調査 基本層 4 層と 6 層



古墳時代中期 土師器坏

沼向遺跡第 37 次発掘調査 出土遺物



沼向遺跡第 37 次発掘調査 確認された珪藻